

「心をいつもアルバートに向けていってください。いつもいつもアルバートを心に思ってください。どんな時も、アルバートを思っていくのです」常にそう語ってくれる意識がある。目を閉じて、心を見ると、私の意識はアルバートを求めている。そんな時、「ああ、私は意識なんだ」と、幸せを感じる。今、アルバートに心に向けて、広くてゆったりとした世界にいる自分を感じる時と、そんな幸せを打ち砕くほどの凄まじい破壊のエネルギーを心に受ける時と、様々な心の世界が現れる。肉体はそんな狭間に入り、揺れている。

「お前にこの私の苦しみが分かるか。何がアルバートだ。この苦しみの前に出てこい。この闇の中から私を救い出せるのか。何もできないのなら、黙ってひっこんでおれ。今更何を言われても、もはや手遅れだ。こうなったらすべてを消滅させてやる。闇も光もあるものか。何もない。何も残らない、残さない。」と、凄惨な剣幕で語る意識がある。過去世の自分かと一瞬思ったが、未来の私でした。肉の苦しみにがんにがらめになり、自分でどうしようもないことを悟りながらも、素直になれず苦しんでいる。肉の限界を知りながら、まだ抵抗しようとしている。私は意識を必死にアルバートに向けた。心のすべてをアルバートに向けた。血が出るほど咳が出て、だるくてたまらなかつた肉体が、嘘のように治っていく。アルバートに心に向けられ

ば向けるほど、心の中が暖かくなり、優しさが広がって行く。さっきまで苦しんでいた意識が静かになり、心を見始める。そして、大きな温もりに包まれた自分に気づき始める。心がどんどん素直になり、喜びに変わっていく。自分の心の中で起こっていることが、肉体に出て、はっきりと意識の世界の深さを痛感する。

今「私は意識です」ということが、まっすぐ心に入ってくる。「意識です」の中に、すごい喜びがある。自分を肉と信じていた時とはまったく違う自分がある。アルバートに心向ければ向けるほど、「私は意識なんだ」と自覚できる。未来の自分を供養できることが、とてもうれしいです。「アルバートは喜びの波動でした。すべてを喜びに変えていく。」と、確信しました。